高校時代には3年連続3冠という偉業を成し遂げ、
世界最高峰のNBAでプレーをした唯一の日本人、田臥勇太。
今年35歳を向かえた彼に、現在の心境と目標を聞いた。

地道なことの繰り返しでしか成功への道は切り開けない

練習がはじまる2時間前。毎日、誰よりも早くコートに現れ、淡々とウォーミングアップをはじめる男がいる。チーム最年長のベテラン、田臥勇太35歳。天才という名を欲しいままにした"生ける伝説"は、今まで以上にバスケットボールにのめり込んでいる。

現在、田臥が所属しているのは、プロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」。昨シーズンは、NBLで惜しくもセミファイナルで敗退、優勝を狙う今シーズンは19勝4敗で首位（昨年12月のインタビュー時点）と快進撃を見せている。

「年齢を重ねるごとに、やるべきことは多くなってきます。数年前にケガで苦しい思いをしているので、今は自分の体としっかり向き合い、選手としてコートに立ち続けることが一番。簡単なことではないけれど、"できること"を証明し、このチームで優勝したいですね」。

たとえ連勝中でも、田臥に油断の色はない。それどころか、勝ち続けているからこその危機感すら感じている。

「勝ちが続くと、どうしても"これでいいんだ"という雰囲気になってしまう。でも優勝するためには、まだまだ必要なことがたくさんあるんです。優勝できるチームというのは、苦しい時でもコンスタントに簡単なことをやり続けられる強さを持っている。ひとつのシュート、ひとつのリバウンド、その重みを一瞬たりとも忘れずに、チーム全員で受け止めてやっていけるかが大きなテーマです」。

勝っても負けても、田臥の中には「もっとこうできたのでは？」というイメージが湧いてくる。「まだ身についていないことがある」という問題意識が常にあるのだ。現状に満足しない姿勢。これはバスケットボールの本場・NBAでの経験が大きいと彼は語る。

「NBAではスター選手であればあるほど、地味な練習に時間をかけていたんです。あれほどのスタープレーヤーがですよ。それに追いつくためには、できる限りのことをやらなくちゃいけないし、バスケットボールというものを真摯に捉えなくてはいけない。でも、練習したことってだいたいがうまくいかないんです。それでも諦めずに繰り返し続けるしかない。それでしか成功への道は切り開けないですからね」。

日本代表でのチャレンジもNBAの舞台に繋がっている

元NBAプレーヤーとして、また35歳という年齢的にも、田臥の背負う役割は年々変化してきているという。今年のリオオリンピックのアジア予選では、久しぶりの日本代表に復帰した。

「10年前にも日本代表の話しをいただきましたが、その時はNBAに挑戦することで余裕が無く、辞退してしまった。今だったら、NBAも日本代表も両方やると思うんです。色々なチャンスに全力で取り組むほうが、プレーヤーとしても人間としても厚みが出ると考えられるようになったから。それが20代の時からの大きな変化ですね。今回初めて日本代表としてオリンピック予選に出たんですが、日本のために戦える"ありがたみ"というものをすごく感じました。若い選手にもそういう気持ちをもって臨んで欲しいし、自分が伝えられることはできる限り伝えて、なんとしてもオリンピックに出たいですね」。

田臥にとって、日本代表という新たなチャレンジとNBAへの夢は繋がっているという。

「選手である以上、NBAを目指し続けます。日本代表で活躍すれば、それを誰かが見ているかもしれないし、どこにチャンスがあるかわからない。だからこそ今この場所で、今できることにベストを尽くしていこうと思います」。

薄皮を一枚ずつ重ねていくように、当たり前のことを繰り返すこと。「成功に近道はない」という彼の言葉には、まっすぐな覚悟が静かにみなぎっている。思わず「辛くなることはないのか」と聞いてしまう。すると、はにかむような笑顔でこう答えてくれた。

「バスケが好きですから」。

田臥勇太（たぶせ ゆうた）

1980年10月5日生まれ。プロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」所属。173cmと小柄ながら、スピードとパスセンス、視野の広さが武器。名門・秋田県立能代工業高等学校時代には、3年連続で高校総体、国体、全国高校選抜の3タイトルを制し、史上初の9冠を達成。2004年9月にはNBAフェニックス・サンズと契約し、日本人初のNBAプレーヤーとなる。2008年8月にJBLのリンク栃木ブレックスに入団し国内復帰。現在は日本代表に復帰し、2016年のリオオリンピック出場を狙う。

Contents

02 スペシャル・インタビュー【先駆者たち】
田臥勇太（プロバスケットボール選手）
04 Special Feature
新領域に挑む 100年目の油圧機器事業
09 時代を切り拓く【Epoch Maker】特別編
三式戦闘機「飛燕」の修復&里帰りプロジェクト、進行中!
10 【TechnoBox】
川崎水冷媒 ターボ冷凍機
12 【川に見る・日本の四季】
琵琶湖から「冬」を追う
14 HOT TOPICS

【表紙】
油圧ポンプ組立場（兵庫県・西神戸工場にて）
→詳しくは「Special Feature」（4〜8ページ）をご覧ください